

大山の森だより

2019 年秋号



秋の森の香り

秋に森を歩いているとどこからともなく甘いカラメルのような、焦げた砂糖のような不思議な香りが漂ってくることがあります。周りを見渡しても紅葉した木々ばかり。実はこれは地面に落ちた葉の香りなのです。

このように秋に葉が香る植物は大山では2種類が知られています。

1つは溪流沿いに多いカツラの木。カツラは公園などに植栽されることも多いので、ご存知の方も多いかもかもしれません。かなり大きくなりま

すが丸いハート形の葉がかわいらしい木です。

もう一つがタカノツメです。三枚葉の落葉高木で秋は黄色に色づきます。タカノツメの名前は冬芽の形から。湾曲した3本の尖った冬芽が枝の先についた姿は名前そのものです。

どちらもマルトールという成分を葉に含み、地面に落ちた後に乾燥して高く香ります。葉が香ることによってどのような意味があるのかは不明だそうです。秋に素敵な香りを探して大山の森を散策するのもいいですよ。



■ 大山頂上工事のお知らせ ■

詳細は右の QR コードでご確認ください→

6月10日から12月(予定)まで、大山夏山登山道の6合目避難小屋および頂上避難小屋と木道の全面改善工事が行われています。工事期間中は小屋の使用ができません。5合目登山道わきに仮設携帯トイレブース 1 基、頂上に仮設売店と仮設トイレ 3 基と仮設携帯トイレブースを 1 基設置しています。ヘリコプターによる工事資材の運搬期間は頂上付近が全面立入禁止となります。問合せは鳥取県西部総合事務所生活環境局(TEL:0859-31-9628)

夏期 自然ふれあい事業 活動報告

○ブナの森散策とクロモジ蒸留体験

8月24日(土)

アランビック蒸留器を使い、大山のブナの森でみられるクロモジの蒸留水を作りました。



○大山・秋の花観察会

9月7日(土)

豪円山周辺の森と草原で、秋の花や木の実草の実を観察。植物の繁殖戦略を学びました。



■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

裏面にイベント情報を掲載しています。



大山、秋の木の実



秋は実りの季節。大山でも多くの植物が実を付けます。

その中でも大山寺付近(標高700~900メートル)でよく見かける木の実を紹介します。



ブナ:5年から7年に一度豊作がある。三角錐の実の形からソバグリという異名も。2個セットで殻に包まれている。冬越しする動物の大切な食糧で、人間が生で食べてもおいしい。大山寺周辺では9月下旬に落果。

ミズナラ:コナラと比べてどんぐりや葉が大きいのでオオナラとも呼ばれる。長さ3センチほどの大きなどんぐりは、秋に落ちるとすぐに先端から根が出る。縄文人はアクを抜いて冬の保存食とした。



クリ:栽培のクリの実の半分以下の大きさ。シバグリとも呼ばれる。縄文時代から栽培されており、実が大きなものが選別されて現在の栽培クリになった。栽培種より味が濃い。

ナナカマド:紅葉した葉と赤い実が印象的。赤い実は冬遅くまで木に残る。鳥が少々ずつしか食べないように、実には弱い毒があるとか。大山ではナナカマドの実が豊作の年は大雪という言い伝えがある。



アズキナシ:たくさん実ったときは葉の落ちた木々が赤く見える。冬の鳥たちの大事な食糧。文字通り小豆サイズの実でシャリシャリした甘酸っぱい味がする。

タンナサワフタギ:濃い藍色(ほぼ黒色)の実が森の中で実る。鳥の目には光って見えるらしい。沢浴に生えるサワフタギの実には鮮やかな瑠璃色をしている。名前のタンナとは韓国南部の島、済州島の古名「耽羅(タンラ)」から。朝鮮半島にも分布する。



※「大山の森だより」2018年秋号では、ツリバナ、クマシデ、ミズキ、ヤマボウシ、クサギ、タムシバの実を紹介しています。自然公園財団 大山事業地のウェブサイト(<https://www.bes.or.jp/daisen/>)でバックナンバーを公開しています。

大山のおキツネさん



春先、大山寺の参道に若いキツネが姿を見せ、声をかけると寄って来るぐらい人馴れしていたのですが、いつのまにか姿を消してしまいました。大山寺のアイドルキツネになるのではと期待していたのに残念です。また元気な姿を見せてくれると良いのですが。

大山は昔、白狐の靈験で有名でした。大神山神社奥宮の隣にある下山神社は、14世紀に白狐の夢のお告げで現在の地に移転された神社です。白狐が参詣した武将を救うなどさまざまな靈験があり、下山善神と呼ばれ崇敬されていました。



現在の立派な社殿は代々信仰の厚かった石州津和野藩主によって1805年に再建されたものです。社殿の前には、台座も含めると2メートルはありそうな大きな石狐が狛犬のように神社を守っています。あちこち欠けてはいますが首輪までしています。本殿の足下には小さな穴が2つ開いており、これは「きつね穴」で、里を駆け巡った仲間の狐が、そのようすを神に知らせるための穴だそうです。かつて大山寺集落ではキツネが怖がるので犬を飼うことができなかつたとか。



キツネはネズミなどの害獣を捕ることから、食物の神様の眷属(けんぞく)または神使(しんし)としてお稲荷さんなどの神社で祭られてきました。大山には野生のキツネはたくさん住んでいますが、警戒心が強く、姿を見ることは難しいです。靈験あらたかな大山下山神社の白狐様に会いに来ませんか。



大山のアナグマくん



大山で一番よく目撃される野生動物(哺乳類)はアナグマだと思います。姿かたちがタヌキに似ているため、マメダヌキと言われることもありますが、タヌキはイヌ科、アナグマはイタチ科なので、かなり違う生き物です。大山では夕方、観光道路の路側帯で一心不乱に地面を掘っている姿がしばしば目撃されています。雑食性でミズやコガネムシの幼虫が好きなので、捕食しているのだと思われます。視力が弱いので、静かに観察していると近くまで寄って来ることがありますよ。人に気が付くとド

タドタと逃げていきますが、その姿が可愛いです。

普段は地下に複雑で巨大な穴を掘って家族で暮らしています。ムジナとも呼ばれ、巨大な巣にタヌキが居候していることがあることから「同じ穴の貉(ムジナ)」という言い回しが出来たとされています。異種族と一緒にでも気にしないおおらかな性格の生き物のようですね。

タヌキと違い、アナグマはその巣穴で冬眠します。秋のアナグマは木の実などを食べまくってコロコロに肥えています。可愛いですよ💖



ーイベント情報（10月～12月）ー



■自然公園財団のイベント（予定 2019年9月20日現在）

<p>○秋の溪畔林を歩く。山陰の奥入瀬「木谷沢」 開催日：10月30日(水) 9:00～12:00 会場：江府町大平原 木谷沢溪流 集合場所：エバーランド奥大山駐車場(トイレ側) 参加費：1500円 お菓子と飲み物代を含む</p>	<p>紅葉に染まる木谷沢溪流を散策。奥大山の秋を堪能します。巨木の森の中を穏やかに流れる清冽な川や苔むした岩に癒されるひと時です。散策途中でティータイムあり。温かい飲み物とお菓子をお楽しみください。 定員：15名</p>
<p>○奥大山古道ウォーク(共催事業) 詳細未定 開催日：11月10日 8:30～15:30頃 会場：江府町鍵掛峠・御机・下蚊屋 集合場所：エバーランド奥大山前 参加費：1000円 ※詳しくは江府町のホームページをご覧ください。 http://www.town-kofu.jp/kanko/8/2/8/</p>	<p>後醍醐天皇ゆかりの団子汁と伝統の下蚊屋荒神神楽を堪能しながら紅葉の奥大山古道を歩きます。 ●お問い合わせ先： 奥大山古道保存協議会事務局(0859-75-6007) 平日9:00～17:00 定員：100名予定</p>
<p>○森のリースとおブジェづくり 開催日：12月7日(土) 9:30～12:00 会場：大山ナショナルパークセンター2F 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 お菓子と飲み物代を含む</p>	<p> 「木の実」と「つる」でクリスマスリースとおブジェを作ります。 リースとおブジェはプレゼント。 子どもも楽しめる企画です。 定員：15名</p>

■周辺のイベント■

10月26日(土) **大山紅葉満喫ウォーク**

会場：大山町大山博労座、伯耆町柗水高原、江府町エバーランド奥大山
 大山環状道路車両通行規制区間：柗水高原～エバーランド奥大山

午前7時～午後2時 歩行者に開放(全車両通行規制※自転車も含む)

紅葉の名所でもある大山では、年に1回、半日限定で大山環状道路の車両通行を規制し、歩行者に開放しています。自由に歩いてじっくり紅葉を楽しむもよし、紅葉満喫ウォーク(3コース、参加費 1300 円)に参加するもよし、エバーランド奥大山では地域の食の祭り「秋の奥大山うまいもん祭」も開催しています。紅葉鑑賞だけでなく食も楽しめるイベントです。

無料シャトルバス 大山寺(博労座)→柗水高原→大山まきばみるくの里→大山寺(博労座) ※規制区間内は無し

【問い合わせ】大山紅葉満喫ウォーク実行委員会 (TEL:0859-31-9372)



一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33
 大山ナショナルパークセンター 1階
 TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370
 URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

